



# 9月10日～16日は 自殺予防週間です

## ◆大切な命を支える 「3つの行動」

日本では、年間2万人を上回る人が自ら命を絶っており、その多くがうつ病などのこころの健康問題を抱えていることがわかっています。

自殺を考えている人は、口に出さなくても何らかのサインを発しています。周りの方の次の3つの行動が大切です。

- ①サインに気づく
- ②相手の気持ちに寄り添って話を聴く
- ③つなぐ、見守る

①サインに気づく 悩みや不安を抱え苦しんでいる人は、誰にも相談できず、孤立することで自殺へと傾いていきます。あなたの周りに、“最近表情が暗く、元気がない”“頻りに体調不良を訴える”など、普段の様子と違う人はいませんか。

②相手の気持ちに寄り添って話を聴く 自殺を考えている人は、絶望感や孤立感を感じています。助言をするのではなく、じっくりと話を聴き、共感することが大切です。

③つなぐ、見守る 問題解決できるよう、相談機関につなぐことが大切です。下記の相談機関につないだあとも、変わらず見守っていることを伝え、相手に安心感を与えましょう。

## こころやからだ (アルコール・薬物を含む) の不調の相談

相談窓口	電話番号	受付日時
福祉保健課	0748-52-6573	月～金 午前8:30～午後5:15 (祝日、年末年始を除く)
滋賀県東近江保健所	0748-22-1300	
滋賀県立精神保健福祉センター	077-567-5010	月～金 午前9:00～午後4:00 (祝日、年末年始を除く)※面接や要予約

電話や面接 (要予約) による相談を行っています。事前にお電話をください。

◆問い合わせ先 福祉保健課 ☎0748-52-6573

## 綿向雑感

— 2019年9月 —  
日野町長 藤澤 直広

8月15日、全国戦没者追悼式。翌日の新聞の見出しの多くが「天皇陛下のお言葉」「深い反省の上」に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願う、「(首相式辞)「加害と反省なし」。歴代首相はアジア諸国への加害責任に触れ「深い反省」に言及し

韓国は、日本に最も近い国です。近代においては、1910年(明治43年)朝鮮併合以来、36年間、日本が朝鮮半島を植民地支配しました。そのため慰安婦問題、徴用工問題をはじめ両国間には痛苦の歴史課題があります。

韓国を訪問しました。日韓関係が「緊張」するなかで交流が中止される自治体もありましたが、恩山面の皆さんは快く迎え入れてくださり、使節団の皆さんもとても良い交流ができたと言っていました。

韓国恩山面と国際交流をはじめ30年になります。今年、日野中学校の生徒12名をはじめ合計16人が7月30日から8月2日まで3泊4日

8月8日、県庁で「日章旗」の返還式がありました。フィリピンで戦死された奥之池の齒黒八郎さんのものでアメリカから返還されたものです。戦後74年になります。日本が直接戦争にかかわることなく「戦後」が続いています。平和な社会を築くために力を合わせましょう。

7月28日投票の参議院選挙では、「憲法改正が争点」ともいわれましたが、「改憲派が2/3割れ」になりました。全国32の1人区で野党共闘が成立し10選挙区で当選。滋賀県でも嘉田前知事が当選しました。

7月28日投票の参議院選挙では、「憲法改正が争点」ともいわれましたが、「改憲派が2/3割れ」になりました。全国32の1人区で野党共闘が成立し10選挙区で当選。滋賀県でも嘉田前知事が当選しました。

韓国恩山面と国際交流をはじめ30年になります。今年、日野中学校の生徒12名をはじめ合計16人が7月30日から8月2日まで3泊4日

# 「追い払い」でサル被害を防ぐ

ニホンザルによる農作物被害を防ぐためには、電気柵の設置、不要果樹の伐採など様々な対策がありますが、その一つに「追い払い」があります。追い払いは、ニホンザルに対して「人間は怖いもの」「人里に近づくと危険」と認識させることです。ここでは、ニホンザルの追い払いを効果的に行うための道具や方法、ポイントについて紹介します。

## 1. 追い払い道具

「人がサルを怖がらせる」ための道具であり、また、逆に「人がサルを怖がらない」ための道具でもあります。上下関係のある社会で生きるサルは、優位性にとっても敏感です。サルのことが怖いと思っている人を、サルは怖がりません。

サルに「人間は怖いもの」と覚えさせるよう、追い払い道具を活用し

ましよう。

### ●ロケット花火

20から30メートルほど飛んで破裂します。発射角度を調整して、サルの頭上近くで破裂するように飛ばしてください。

### ●電動エアガン

5ミリ程度の、プラスチック製の球で直接サルを狙います。

## 2. 追い払い方法とポイント

### ●集落ぐるみで

サルは人の顔を記憶します。しつこく追い払いをする人は怖い人、追い払いをしない人は怖くない人と認識します。

サルが最も恐れるのは人です。ご近所や集落で協力して追い払いをしましょう。

### ●5つとも

農繁期・農閑期に関わらず、また、



狙われた作物が、人が食べるかどうかに関わらず、サルを見たら追い払いましよう。

刈り取り前の、水稻や麦を食べられた時だけ追い払いをしても、刈り取り後の落穂を容易に食べることができれば、「ここは安全にエサが食べられる」と学習させていることになります。

### ●山の中まで（追い切り）

サルの住処である山に一歩でも侵入することは、サルにとって大きな圧力となります。山の奥まで追い払うほど効果的です。

ただ、多くの場合、一人で追い払いをし、自分の農地からサルが出て

行けば、追い払いをやめてしまつてとが見受けられます。これでは、サルに「人間は怖い、人里は怖い」と学習させることはできません。

### ●根気強く

サルの追い払いは教育です。出没回数が減るまでには数か月を要します。焦らず無理の無いよう集落全体で取り組みましよう。



町では、サルの追い払い用にロケット花火を無償で配布しています。また、電動エアガンの貸出も行っています（数に限り有り）。ご利用の際は、農林課までお越しください。

また、獣害対策についての出前講座にも出向きます。ぜひご活用ください。